# ダルニー通信

60
2010
冬号

ダルニー奨学金を支援する中・高校生の活動紹介（Ｐ２、３）

- ダルニーフェスティバル２０１０開催しました（Ｐ６）
- 日比野克彦氏がラオスでワークショップ（Ｐ８）

一般財団法人
民際センター

# ダルニー奨学金を支援する中学・高校生の熱意とアイディアあふれる活動を紹介します

**文化祭でバザーをしたり、書き損じハガキやインクカートリッジを集めたり、体育イベント（ウォーカソン）を実施したりして、ダルニー奨学生を支援する4つの中・高校を紹介します。**

**松本蟻ヶ崎高校**（バザー）・**北海道札幌白石高校**（書き損じハガキ）
**山梨英和中学・高等学校**（ウォーカソン）・**都立多摩桜の丘学園**（使用済インクカートリッジ）

## ●松本蟻ヶ崎高校（長野県）文化祭でバザーを開き、2010年度は36万円を寄付

同校の文化祭、通称「ぎんが祭」は生徒4名のバザー係代表を中心に企画・運営します。まず地元のタウン誌「市民タイムズ」にバザーの告知を出します。そして全22クラスから各2名の委員（全44名）がチラシを持って地域住民を1軒1軒訪問し、物品の提供と1週間後にそれを受け取りに行く旨、伝えます。訪問総数は約1,000軒。地元に根ざした創立110年の歴史がものを言い、住民は快く協力してくれるそうです。物品はタオルやシーツなどの日用雑貨ですが、時々、素晴らしい木彫などのお宝品も提供されるそうです**（右の写真下）**。数量が多い場合は先生が車を出します。

さてバザーでは、現地の子どもたちの写真を展示しつつ、信州大に通うラオスからの留学生にもお手伝いいただき、提供品を販売します（バザー時以外でも、ラオス留学生との交流が実現しました）。当日、新聞社に取材してもらうため、事前にプレスリリースを送ることも忘れません。告知が効き、机に並んだ品物も宣伝通りの粒ぞろい。それゆえ毎回、大勢の人がバザー会場につめ掛けます。バザー係の生徒は「山のような品数、大勢のお客さんの熱気、正確な金銭のやり取り。バザーはただただ大変でした」と終了直後は虚脱状態ですが、心は「やり遂げた！」という達成感でいっぱいです。そして、12月に届く奨学生の写真と証書を見て支援の実感が湧くそうです。さっそく生徒たちはその証書と写真を使って「ダルニー新聞」を作り、全校生徒と先生たちに配布します。

生徒たちは想像力を働かせて、目の前にいない、知らない人を支援することの大切さを考えて、熱意と創意工夫で支援を継続しています。

## ●北海道札幌白石高校
## 生徒が町内会の各戸を廻り、書き損じハガキを回収

同校は1996年から現在まで15年間一度も途切れることなく、書き損じハガキを集めてタイ・ラオスの子どもたちを支援しています。書き損じハガキの集め方は、次の通りです。

まず生徒会を通じて各クラスに2名いる生活委員が、各クラスに書き損じハガキ回収キャンペーンのプリントを配り、校内放送でも呼びかけます。先生にも協力を依頼します。また町内会にもお願いの文書を配布します。そして、学校内では12月中に、町内会では1月中に回収作業を開始します。特にプリントを配布した町内会には生活委員と保健委員が総出で各戸を廻り回収します。

「多くの生徒がボランティア活動に対する関心を高め、福祉活動の大切さを確認することがボランティア・福祉活動の目的です。15年もの長期にわたって支援を継続しているのは、アジアの子どたちを支援するダルニー奨学金が、この活動目的に合致しているからではないでしょうか」と同校の片桐先生は支援の理由を述べています。

収集した書き損じハガキ等を数える生徒たち

## ●山梨英和中学・高等学校
## ウォーカソンで20年間に400人以上を支援

23キロを完走してゴール

走行距離23km、標高差800mのコースを制限時間の6時間10分以内で走ったり、歩いたりする強歩大会――それが、山梨英和中学・高等学校の生徒全員がチャレンジするウォーカソンです。生徒が区間ごとに親や親せきの人たちとスポンサー契約し、走った距離に応じてスポンサーから約束した金額をもらいます。そして集まったお金をダルニー奨学金として寄付します。 2009年度の完走率は97.1%。タイやラオスの子どもたちのために山あり谷ありの23キロを必死に走る生徒たちは、困っている他者に手を差し伸べることができたという達成感を感じ、自信を強め、仲間との連帯感を深めます。

こうした活動が評価され、今年度、山梨県での選考を通過し、全国で「平成22年度　財団法人ソロプチミスト日本財団　社会ボランティア賞」を受賞しました。決して楽ではないウォーカソン。同じ地球上に生きる子どもたちが教育を受けることによって未来を変えることができると信じて、山梨英和の生徒たちはゴールを目指します。

## ●東京都立多摩桜の丘学園
## 1年間で使用済みインクカートリッジ9箱を収集

全校生徒約250人の同校では、高等部生徒会が中心になって活発な収集活動を展開しています。段ボールにポスターを貼った収集箱を校内5ヶ所に設置し、校内2か所に大きなポスターを貼り、全校生徒に「お知らせプリント」を配布します。昼休みには生徒会が校内放送を流して、インクカートリッジの収集を呼び掛けます。しっかり事後報告もします。年度の終わりに生徒会の名前でお礼の言葉と支援している生徒の写真と証書をコピーしたプリントを配布し、掲示板にも貼り出します。

収集したインクカートリッジを民際センターに送る際、送料を負担して頂いていますが、同校ではインクカートリッジと同時に書き損じハガキも集め、それを切手に変えて、その切手で支払いのできる「ゆうパック」で送っています（なるほど！）。

自ら進んで活動する喜びと証書を通じて得られる支援の手ごたえ。それが生徒会活動として定着している理由です。

搬出作業を手伝う生徒たち

## 中学卒業を控えたタイ奨学生の夢

# 『将来、できるだけ祖父母の面倒を見たい』

お祖父さんと畑仕事をするランプーン

両親がバンコクに出稼ぎに出ているため、中学3年生のランプーン・チャイヨーは現在、祖父母と暮らしています。両親と会うのは年2回、そして1,500バーツ（約4,300円）の仕送りが年3回届きます。祖父母は健康状態があまり良くないので、すべての家事と幼い弟の面倒はランプーンの仕事です。その上、週末は祖父と働きに出て、1日50～60バーツ（140～170円）の日雇い仕事を見つけます。3月～5月の夏休みは、ずっと砂糖キビ畑で働きます。身長138cm。砂糖キビ畑の労働は小柄なランプーンには重労働ですが、それもあまり苦になりません。

両親はランプーンにできるだけ高い学歴を得てほしいと思っていますが、果たして家計がそれを許すかどうかはわかりません。ランプーンもそのことはわかっていて、将来のことはあまり考えないことにしています。ただ「できるだけ長い間、年老いた祖父母の面倒を見ていきたい」と強く感じています。そして、村で麻薬に手を出す子どもを見るにつけ、「彼らに将来のことを真剣に考え、もっと行儀良く行動することを教えたい」という希望を持っています。

## 協力団体紹介

# ㈱ミラック光学が『勇気ある経営大賞』の賞金を図書セットに寄付

株式会社ミラック光学　代表取締役社長　村松洋明

**〈工業用の顕微鏡やレンズ・摺動ステージ等を製造する精密機器メーカーの㈱ミラック光学はこの度、『第8回　勇気ある経営大賞』の優秀賞を受賞しました。同社は『夢の架け橋』プロジェクトの一環として2007年度からタイとラオスの奨学金を支援しています〉**

『勇気ある経営大賞』とは、東京商工会議所が厳しい経営環境の中で勇気ある挑戦をし、革新的あるいは創造的な技術・技能やアイデア・経営手法等により、独自性のある製品・サービスを生み出している企業を顕彰する制度です。

平成22年は有力企業189社の応募があり、その中から厳正な審査を経て弊社が「優秀賞」を賜り、顕彰式で顕彰状・トロフィー、副賞として賞金を贈呈して頂き、身に余る思いでございました。

受賞の一報が届いた時から弊社は「優秀賞」の栄誉だけを賜り、賞金50万円については経営理念・社訓に基づいて全額寄付することを決心しておりました。それは日頃より弊社をお引き立てくださる全ての方々への感謝の気持ちも込めて、社会貢献に活用したいと純粋に思ったからです。

企業団体ドナーとして支援をしている奨学金制度に寄付することも考えましたが、今回は特別な賞金の用途でもあり、経済的に恵まれない国のたくさんの子どもたちを喜ばせてあげたいという思いに駆られ、民際センターを通して、本を読む機会がほとんどないと言われるラオスの子どもたちに2、250冊の図書をプレゼントすることにいたしました。子どもたちが嬉しそうに本を読む姿を思い浮かべると私たちは幸せな気持ちになり、子どもたちの豊かな想像力と思考力を育む一助となるならば、ミラック光学の経営理念とも重なり有意義な社会貢献活動になることでしょう。

● ラオス ● ブーンライ保健衛生事業の報告 ●

# 木から落ちて怪我をした少年の治療費をブーンライ基金から補てん

## 3日間の治療費は一家の年収額に相当

キノイはセーコーン県のヨクトン校に通う小学校1年生の生徒です。今年9月、彼は木に登って果実を取ろうとして転落し、頭と胸を強く打ち、さらに歯が1本折れてしましました。お母さんは村人にバイクでキノイと一緒に国道まで連れて行ってもらい、そこからバスで県病院に行きました。家から病院まで片道30キロ。3日間入院して、交通費も含めて治療費は約5,500円でした。これは、キノイの両親の年収に相当する額です。

キノイの両親は土地なし農家で、農繁期に労働力を提供して賃金またはお米を稼ぎます。しかし毎年、家族の8カ月分の食糧しか購入することができません。また、多くの家庭では緊急事態が起こり、至急のお金が必要になった場合、親せきや近隣にお願いしてお金を借り、収穫時に返済します。しかし、ラオスはタイと違って出稼ぎ先がたくさんあるわけではなく、また、干ばつや洪水で収穫量が落ちるなど、農家の収入はいつも不安定です。キノイの家庭も例外ではありません。

ブーンライ保健衛生事業では、この事業の会員になっている生徒が手術や事故に遭った場合、年1回最高50万キップ（約5千円）の治療費の補てんを受けることができます。今回、キノイはそれに相当するので、最高額の治療費補てんを受けました。経済的にぎりぎりの生活を送っているキノイの家庭にとって、この治療費の補てんはとても助かりました。

退院後、折れた前歯を見せるキノイ

## ブーンライ保健衛生事業とは？

子どもたちが怪我や病気になっても、経済的に貧しいため病院で治療を受けられなかったり、学校に通えなくなったりしないように、現在、17の学校で以下の3つの活動を実施しています。

①健康診断の実施、②薬箱の設置、③治療費の一部補てん。さらに、これまで一部の学校で実施していた予防衛生授業を、今年度から全校で実施する予定です。

ブーンライ保健衛生事業では、運営費の確保および「自分たちのプロジェクト」という自覚をもってもらうため、生徒から毎月500キップ（5円）の会員費を徴収しています。しかし、運営費の多くは日本からの寄付で賄われています。ご寄付をご希望の方は事務局03-5292-3260（奥野）までお問い合わせください。

# ダルニー・フェスティバル 2010

秋晴れの一日、
約120名の支援者の皆さんが東京のJICA地球ひろばに集い、
ダルニー・フェスティバル2010を開催しました。
全国ドナー連絡会は今年で10回を数えますが、初めての東京開催でした。
来年は甲州での開催予定です。情報交換や支援者同士の交流など楽しい催しですので、
多くの方のご参加をお待ちしております。

## 第1部　トークショー

### ＊文壇裏話＊

阿刀田 高さん

日本ペンクラブ会長を務められる阿刀田さんの「日本文学のレベルは、世界屈指であるが、日本語というマイナー言語であるが故に世界に認められにくい。もっとノーベル文学賞がでていいはず」とのお話に参加者は納得。

### ＊おかげ様精神に支えられて＊

浦上 節子さん

ハウス・バーモントカレーを生み出したご主人を事故で突然亡くされた後、浦上食品・食文化振興財団を創設された浦上さん。「人生は一変しましたが、9つうまくいかなくても1つうまくいけば大丈夫！皆さんのおかげでいつも元気です。これからも食文化の発展に寄与します」と話され、参加者にパワーを与えてくださいました。

## ドナー連絡会全国会議

第2部に引き続き、第10回ダルニードナー連絡会全国会議を開催しました。今回は民際センターが主催者となり、最近の奨学金の傾向、今後の方針、その中での連絡会の活動への期待、サポート体制などを報告し、それをもとに意見交換をしました。参加者は13名。特にサポート体制については、各連絡会が地元で楽しく生き生きと活動できるサポートアイテムを紹介。その中で、500円玉を20個の丸い穴にはめ込むボードが「イベント等に活用できる」と大いに注目を集め、様々な活用アイデアが出ました。また、地元で学校などに出張授業に行く際のアポイントの取り方や必要な資料などについても活発に議論を交わしました。

## 第2部　つながり交流会

地域連絡会と協賛企業の活動をブースで紹介。皆さん趣向を凝らした内容で、参考になりました！

## 特別催事　ウォーカソン東京大会

山梨英和中学高等学校の伝統行事「ウォーカソン」を東京（会場⇔東京タワー）で実施。5名の中学生と丸山先生は会場の拍手に見送られ、東京の街に走り出しました。皆さんからの寄付金は55,252円にもなりましたよ！

出発に先立ち抱負を話す生徒たち。夏にラオス研修旅行に参加した生徒は、「ラオスに行って、何でも一生懸命やるように、私は変わりました」と話した。

## 米穀製品専門商社、木徳神糧㈱が

## 「タイ香り米 無菌米飯」でタイ奨学生を支援

「タイ米のイメージを変えた『タイ香り米』。独特の芳香、柔らかい食感。タイ料理はもちろん、世界各国の高級中華料理に欠かせない世界のお米です。白飯でカレーに、炒めて炒飯に…、といろいろな調理法で頂くことができます」（木徳神糧㈱海外事業部）。民際センターでは、同社提供の「タイ香り米」（170g）をイベントなどの機会に200円で販売し、その収益を全額タイ奨学金にさせていただきます。

Lao-Library 1000

ラオスの子どもに1000の図書セットを届けるキャンペーン

## 「Lao-Library 1000」キャンペーン

本年7月より開始した「Lao－Library1000キャンペーン」。本を読む機会がほとんどないラオスの子どもたちに、1000の図書セットを提供することを目標にしています。皆様の温かいご支援により、2010年10月末現在約200セットのお申し込みを頂きました。すでに報告書が届いた方からは、「自分の名前が図書箱に記載されていることと、受け取った子どもたちの写真が報告書として届くことが嬉しい」という感想をいただいています。中には、ご自分のお子様やご友人の名前で申し込み、彼らへのプレゼントとして申し込まれた方もいらっしゃいます。

図書セットの支援の方法は、①ダイレクト寄付（現金振込）と②リサイクル寄付（不要な本売却）があり、民際ホームページからお申込ができます。

**キャンペーン目標**

**1000の図書セット配布に向けて、皆様のご協力をお願いいたします。**

| **ダイレクト寄付**　現金で直接振り込みご寄付いただく方法です。 | |
|---|---|
| 郵便振込でのお支払い | ・民際ホームページより、「Lao – Library 1000」にアクセス |
| 銀行でのお支払い | ・ダイレクト寄付を選び、お申込フォームに記入した上、お振込方法を選択<br>・郵便振替および銀行振込については、寄付確定後メールにて振込先口座をお知らせ |
| クレジットでのお支払い | ・クレジット振込については、クレジット決済画面にて振込 |

**リサイクル寄付**　ご不要な本をブックオフを通じて売却してご寄付いただくエコな方法です。

＜不要な本・CD・DVD・ゲームソフトを集め、民際ホームページより、「Lao-Library 1000」にアクセス＞

不要な本などを収集する → 民際センターホームページにアクセス → お申込フォーム記入 贈与承諾して送信 → ブックオフから集荷(無料) → 査定金額報告寄付 合計1セット分に達した時点で現地贈

※詳しくは民際センターホームページをご覧ください。

## 「マンスリー・サポート・プログラム」スタート

### 「すべての子どもたちに教育を」という民際センターのビジョンに共感いただき、民際センターの活動そのものにご支援いただくプログラム

民際センターは、これまで多くの皆さまのご支援により、ラオス・カンボジア・タイの子どもたちに教育機会を提供してきました。しかし、リーマンショック以降、私たちの活動を取り巻く経済環境は厳しい状況が続いています。一方、世界にはまだまだ教育を受けることのできない子どもたちがたくさん存在し、「すべての子どもたちに教育を」という民際センターの理念達成には、活動資金が必要です。

そこで今回、民際センターのビジョンに共感いただき、民際センターの活動そのものにご支援いただくプログラムとして「マンスリー・サポート・プログラム」を開始しました。

これは毎月1,000円～のクレジット決済の継続支援です。ご支援いただいた資金は、支援内容の充実、新たな支援地域の開発、活動内容の啓蒙強化など民際センターの活動運営全般に活用させていただきます。活用内容については年1回、決算報告にてご報告させていただきます。お申込は、民際センターホームページよりお願いいたします。

**～皆さまのご理解、ご支援をお願いいたします。～**

**【日比野克彦氏プロフィール】**
アーティスト　1958年8月11日生まれ　岐阜市出身　現在東京芸術大学教授。国内外でアートのワークショップを精力的に行う。個展「ひとはなぜ絵を描くのか」は8年ぶりの東京での個展として注目を集めました。

# アーティスト 日比野克彦氏　ラオスの小学校で 水彩画のワークショップを開催

2010年9月16日から22日の一週間、アーティストであり東京芸術大学の教授である日比野克彦氏がラオスを訪れました。訪れたのは、サワンナケート県、ウトゥムポーン郡ポントゥン村の小学校。民際センターとのコラボレーションにより、18日から20日の3日間、5年生を対象に、図画工作のワークショップを開催しました。用意したのは画用紙、12色の水彩絵の具と色鉛筆、筆、パレット、筆洗い用のバケツ。これらの画材については、当団体を長年支援いただいている株式会社夢ふぉと様（卒業アルバムなどの制作・販売）より提供いただきました。ワークショップは、日比野氏が基本的な道具の使い方などを指導したのち、学校の前の林に机を出し、2人1組でお互いの顔を模写するという青空教室として行われました。ラオスでは授業に図工がないため、子どもたちは、これまでほとんど絵を描いたことがなく水彩画はもちろん初めて。絵筆を使う体験に目を輝かせていました。また、5年生以外の子どもたちもたくさん集まり、興味深げにその様子を見つめていました。そして最後には、描いた絵を木々に巻きつけ、描かれた本人がそれに並ぶという、子どもたちにとっても忘れられない思い出となるフィナーレで締めくくられました。子どもたちが描いた作品のみならず、そこで過ごした村人や子どもとの時間や空間そのものがアート作品であるような、素敵なワークショップとなりました。日比野氏も、貧しいながらも笑顔や笑い声のたえない子どもたちに、前向きな希望を感じられたのこと。このワークショップは、今後もラオス・ポントゥン村小学校を中心に、芸大の学生や卒業生に受け継がれ、継続的に活動を続けていく予定です。

また、ワークショップの中で、日比野氏自身もラオスをテーマにした作品を数点創作し、これは本年10月31日～12月13日に東京秋葉原で開催される日比野克彦個展「人はなぜ絵を描くのか」（本年10月31日～12月13日に東京・秋葉原で開催）で展示されました。

# ラオス国際交流の旅を実施しました

9月3日から10日まで、株式会社H.I.S.主催のラオス国際交流の旅を実施しました。
今まで弊センターで実施していた旅行は、支援者の方のみを対象としておりましたが、
本旅行では、支援者以外の方にも幅広く募集をし、計20名の方が参加されました。

| 日程 | スケジュール |
|---|---|
| 9/3 | 成田→ハノイ 【ハノイ泊】 |
| 9/4 | ハノイ→ルアンプラバン<br>ルアンプラバン観光 【ルアンプラバン泊】 |
| 9/5 | ルアンプラバン観光 【ルアンプラバン泊】 |
| 9/6 | ルアンプラバン→パクセー<br>パクセーより車で村へ<br>村で歓迎会 【サワナケート泊】 |
| 9/7 | 小学校にて子どもたちと交流 【サワナケート泊】 |
| 9/8 | 小学校にて子どもたちと交流 【サワナケート泊】 |
| 9/9 | パクセー→シェムリアップ→ハノイ |
| 9/10 | 成田着 |

今後は以下の予定で実施予定です。
**タイ：2月20日～26日**
**ラオス：2月20日～3月1日、3月6日～3月15日**
ご興味ある方は民際センターまたはH.I.S.
トラベルワンダーランド新宿本社エコツーリズム
デスク（03-5360-4810）までご連絡下さい。

子どもたちとラオス舞踊を踊りました

折り紙を折って子どもたちにプレゼント

ライオン（株）様より寄贈頂いた歯ブラシを使って、歯磨きを教えました

## コラム「民際 昔ばなし」（1）

理事長　秋尾晃正

今は昔。1993年のある日、突然、ある会社の社長の秘書から、「社長の杉山があなたの運動を支援したい。銀行口座をお知らせください」とのことで、300万円のご寄付があった。

当時1,500万円規模の年間予算からして大きな財源であった。設立5年目で、タイ事務所の人件費捻出が一番の課題で、それなりの人件費を払えれば人材確保が可能だった。そこでタイへ送金し、当時13%の銀行金利を得て人件費にあてることができた。本当に助かった。「人は城、人は石垣」と言われるように、どんなに良い活動をしても、人が居つかなければ活動はできない。

その後、この寄付は基金として現在も奨学金に使われている。残念ながら、その会社は閉じたが、社長の当時の好意はしっかり生かされ、タイの基礎教育の普及・拡大に大きく貢献している。

# バレーボール1000個プロジェクト始末記

遠州ダルニー連絡会 世話人　畑　寛和

毎年、タイ東北地方（イサーン）を訪れ、子どもたちにバレーボールを提供し続けてきましたが、各学校の慢性的なボール不足を見るにつけ「もっとボールが沢山あれば」と思い続けていました。しかし、新品のボール1個が月収の30～80%では多くは望めません。そんな時に大チャンスが訪れました。2010年4月1日付けで日本のバレーボールの公式球が変更になり、公式戦では使えないボールが推定で12～15万個ほど余ると予想されました。

そこで日本全国のバレーボール仲間に、古い規格のボールの提供を呼びかけたのです。名付けて「バレーボール1000個プロジェクト！」。全国の友人、知人達から続々とボールが集まりました。順次、船便でイサーンのサコーンナコン県の友人宅宛に送り、最後の70個は私たち夫婦で運びました。

さて、9月18日にタイに入国しました。入国審査後の荷物チェックでは大量のボールを段ボール箱に入れて運んでいるため、中身の説明を求められましたが、「イサーンの子どもたちへのプレゼント」と言って、子ども達と一緒にバレーをやっている写真と奨学生の証明書を見せると、入国係員はウインクして通してくれました（＾o＾）。

そして20日、まずサコンナコーン県の小・中学校（併設校）でボールの贈呈式を行いました。朝10時に学校に到着したら、なんと入り口に歓迎の横断幕！県の教育長やら各校の校長先生、地元新聞のカメラマン！一番驚いたのは、近隣15校のバレー部員（主に中学生）300人が大拍手で迎えてくれたことです。 贈呈セレモニーが終わり、贈ったばかりのボールを使って早速バレーボール教室を開催しました。10人、20人で1つのボールを何年も大事に使うのが当たり前の地方で、1人に1個のボールがあることは、いかに子どもたちの喜びになったか、皆さんに御想像いただきたいです。

21日以降、コーンケン、ナコーンパノム、ローイエットの各学校でボールを贈呈しました。一部は南部のチャンタブリー県の山間部の小さな学校へ。そして、メコン川を越えてラオスにも届きました。車で約1600ｋｍを駈けずり回り、 25の学校にボールを届け、私たちの旅は終わりました。

最終的にイサーンとラオスに送ったボールは「1,030個」ですが、実はまだまだ集まり続けています。それで「バレーボール1000個プロジェクト　パート2」に向けて、また動き始めたいと考えています。

最後にこの場を借りて、ボールを贈呈して頂いた皆様にお礼と御報告をさせていただきます。御協力ありがとうございました。

## 佐久平ダルニー連絡会頑張っています！

10月3日「国際交流フェスティバルin佐久」が長野県佐久市内で開催されました。佐久ダ連はダルニー奨学金の紹介と奨学金確保のバザーを行いました。平成14年からの参加でバザーの品物も途切れ、今年は長野県東部のドナーの方々に民際からバザー品提供支援のはがきを出していただき、 2名の方から支援を頂きました。また、八ヶ岳高原野菜の農家から白菜500個とネギ等の野菜の提供が有り、佐久ダ連メンバー12名が販売とダルニー奨学金の紹介を行いました。野菜の格安販売で沢山のお客様来場で最もにぎわいのあるブースになり、売上は上々で、Aタイプ2名の支援が可能になりました。

100%ナチュラルティーのお店「シルバーリーフ」がダルニー奨学金応援企画！

# 「地球で一番ピュアなお茶」でタイの子どもを支援しよう

**期間中、ネットショップでお茶のご注文いただくと、商品価格の10%がドナー連絡会「ぷらいさに～」（札幌）に寄付され、タイ奨学金になります。**

★ご注文はネットショップから★
100%ナチュラルティーのお店「シルバーリーフ」URL　http://www.silverleaf.jp/
＊電話・FAXでのご注文はお受けしていません
★お問い合わせはメールで★　ドナー連絡会「ぷらいさに～」（札幌）世話人　山本夏江
＊ホームページ：http://praisanii.kaze-iro.com/　＊E-mail：praisanii@kaze-iro.com

「100%ナチュラルティーのお店　シルバーリーフ」は、いつでも、どこにいても、一人でも大切な人と一緒でも、気軽にとびきりのティータイムを過ごして頂きたい。

そして、あなたの毎日がもっとハッピーになりますように――シルバーリーフは、そんな気持ちから生まれた、札幌のお茶のお店です。

## 100%ピュアでプレミアムなお茶だけをお届けしたい

原材料は有機・オーガニック・自然栽培・無農薬・野生の厳選素材のみ、保存料・添加物・香料・その他薬品などは一切添加も使用もしません。（「シルバーリーフ　ネットショップ」より抜粋）

「事業を通して社会貢献していきたい」シルバーリーフのそんな想いから実現した企画です。お茶の時間をタイの子どもたちのことを思い出す時間にしてもらえたら嬉しいです。

＊2011年1月31日17時ご注文分まで

＊オーガニックティーの紅茶・中国茶・ハーブティーを販売

＊ご注文時、通信欄に「ダルニー希望」と入力してください

＊ダルニー応援企画の商品は、レターパック500を利用して送ります。箱からティーバッグを出し袋に詰め替えて送ります（写真）

＊送料は全国どこでも500円です

＊ご注文は1度に2個まで何度でもご注文いただけます

＊発送方法が通常と違うため、クレジットカードでお支払いできません。

新ドナー連絡会立ち上げ

～チャリティーコンサートでラオスの子を支援している合唱団ヴィンガーズが～

# 連絡会「合唱団ヴィンガーズ」を設立

ヴィンガーズは平均年齢77歳の合唱団です。年2回のコンサートは、毎回、芝居形式（コメディー）で行っており、前回（2010年6月）は、名作『君の名は』『ゴドーを待ちながら』をモチーフに、戦後65年たった今も、再会を約束した真智子を待っている春樹を中心に、人生の不条理をコメディータッチで表現しました。

コンサートの目的はラオスの子どもの教育支援。過去3年間、6回にわたるチャリティーコンサートの収益金をラオスの子どもたちの奨学金に充てました。連絡会「合唱団ヴィンガーズ」を設立したのは、より多くのドナーの方と連携し、コンサートをさらなる成功に導きたいからです。

来年（2011年）1月22日（土）には、東京・北区滝野川会館でファン感謝コンサートを開催します。東大の入試が中止された1969年、生徒全員が東大志望という都立灘開成高校（架空）の生徒群像を通して、青春とは何かを熱く問いかける脱力コメディー。メンバー全員が高校生に扮した怪演・奇演にご期待ください。

これからもダルニー奨学金の普及を目的に、明るく、笑いあふれるコンサートを続けていきたいと思います。

世話人　音楽監督 武田洋、連絡先：
メールアドレス：　episteme@r2.dion.ne.jp
ホームページ：　http://www.episteme.co.jp/

# 事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。ご利用につきましては、下のとおり必要なものを同封の上ご請求ください。

## 地域で奨学金を広める活動をしたい

① 書き損じはがき・未使用テレカの収集
② 使用済みインクカートリッジの収集
③ パンフレットまたはリーフレットの設置
④ 不要な本を集めて送る
⑤ 募金箱を設置したい

①～⑤：80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください。折り返し、該当する資料を送付します。②はポスター、⑤は申込用紙も同封します。①、④はメールでもお問い合わせできます。①については、箱に貼るエコ型はがき・テレカ収集箱作成セットも用意しておりますので、ご希望の方は枚数をお知らせください。

## タイの奨学生と文通したい

① 手紙の翻訳
② タイの切手購入

①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
②：タイ切手セット（12回分1000円）の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

## 奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すこともができます。送料は実費です。

## 個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください（メール可）。折り返し、資料をお送りします（3～5月と10月、学校はお休みです）。

## 奨学金の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

## 事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP・WEB制作の経験者、事務作業など。電話で担当、関口までお問い合わせください。

## 毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙（ゆうちょ銀行）を無料で送付します（タイのみ）。

編集後記：　昨年９月にラオスを訪問した立松さんが、滞在した村や首都ビエンチャンで撮った写真の展示会を都内３か所で開催しました。立松さんは生前、様々な社会活動にかかわっていました。例えば、米の減反が農家の働く意欲を挫き、田んぼの風景を損なっていることを憂えて、東北地方でコメをつくり、それを醗酵させて牛の餌にする活動（牛の餌はほとんど輸入なので、食料自給率の向上にも役立ちます）。法隆寺など国宝級の大寺院が数百年に一度大改修工事をする際に必要となる、樹齢数百年のヒノキを育てる運動、「田中正造」で有名な足尾銅山の跡地に緑を植える活動等など。こうした社会運動家としての、惜しげもなく自分の時間とエネルギーを提供する姿勢があるので、ラオスの奨学生を支援する国際協力活動にもすんなり参加されたのではないでしょうか。立松さんは著書の中で、ボランティア精神について以下のように述べています。「自分の持っている力を惜しげもなく与え、相手から何もほしがらない。（といって）人の事ばかり考えよというのではなく、自分が自分として住みよい世界を作るのである」。（冨）

一般財団法人 民際センター

ダルニー通信　第６０号　　２０１０年１２月１日発行　　発行人：秋尾晃正
一般財団法人民際センター　〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町518　司ビル301号
TEL: 03-5292-3260 FAX: 03-5292-3510
Eメール：info@minsai.org ホームページ：http://www.minsai.org/
振替口座：００１５０－０－５７６６４

── 紙面レイアウト協力 ──
吉田シャショク　福岡県大牟田市小浜町1-5-17　☎0944-51-8604